

「有機農産物で社会全体を健康にしたい！」

有機農産物の生産販売から若手有機農業者の育成まで、有機農業の推進に情熱を注ぐ。
五島農園（神戸市西区）五島 隆久さん（68歳）（明石市）

就農コース3期生（H19.9修了）

インタビュー 令和3年8月

1 なぜ、農業をしようと思ったか

定年後の人生を考えたときに、人に雇われているのではなく、自分の考えや判断、自分の力で切り拓いていけ、その上、飢え死にしない農業をやってみたいと考えた。

妻のオーガニック志向の影響を受け、農業をするなら有機農業を目指すことにし、有機農業に関するセミナー等へ参加し情報収集をはじめた。兵庫県有機農業研究会に入会しその講習会で知り合ったジャパンバイオフィームの小祝さんからBLOF理論を学んだ。



サラリーマン時代の人脈から就農コース入学前に農地も借りられることになり、53歳の時に仕事を辞め、技術習得のため楽農生活センター就農コースを受講することにした。

2 楽農生活センターで学んで

何も知らない状態で入学し、農業のいろは、栽培技術の基礎、特にトマト、まくわ瓜の技術について学ぶことができ、今でもその栽培技術を守っている。メロンはハードルが高くて断念した。

入学後は、小祝さんの指導を受けて有機農業で栽培した。当時の就農コースは慣行農法なので先生の反発を受けたが、他の研修生よりも良い出来であった。

販売は有機栽培なので関西よつ葉連絡会の岩岡へ出荷し苦労しなかった。

経営を始めると、機械にお金がかかることが分かった。200万円買ったトラクターが修理費を入れると300万円の出費となることもあった。ハンマーナイフモアなど欲しい機械も購入したので機械代がかかる。今、思えば機械の基本的なメンテナンスを教えてもらいたかった。



3 新たに就農してみても

最初の10年間は70種類を栽培し、最初は機械投資などで貯金を取り崩しすつから

かんで借金もあったが6年目で500万円の売り上げを上げることができた。

全てにおいて自分の判断で過ごすことができ、自分の裁量で自由度が高い反面、自己管理も大切。農業をしているからこそ、新たな事にも取り組むことができたし、様々な人々との出会いがあり、人生が豊かになったと感じる。テレビ「ちちんぷいぷい」やラジオ「三上公也の情報あさいち」に出演する機会もあった。有機農産物は販売には苦労しないため、大手百貨店の店長から出荷しないかと誘われたり品質の良さが認められ販売先が広がった。ニンジン、ほうれん草は慣行栽培とは全然味が違う。有機でおいしいものをつくる。

4 今の状況とこれから

神戸市西区櫛谷町と玉津町で約98a（うちビニールハウス2棟(2a)）のほ場で有機農産物を生産し販売（2008年4月有機JAS認定）。

有機JAS認証を取得しているため、販売先には困らず、有機農産物を取り扱っている多数の店へにんじん、たまねぎ、大根、キャベツ、トマト、オクラ等30品目ほどの野菜を直接取引で12店舗、JA経由で16店舗に出荷しており、五島農園の販売コーナーがある店もある。また、加工品も開発しており、「やさしいジャム」「トマトジュース」や「藍パウダー」も販売している。



今後は、少量多品目栽培は出荷調製に時間がかかるのでサツマイモなどに品目数を絞り、あと15年後83歳で老後の資金が出来るよう効率的な経営をめざしたいと考えている。そして83歳からは次男が生活しているスペイン マジョルカ島でゆっくりしたい。

5 最後に

芦屋市へ給食食材を供給するほか、明石市にも有機食材の取扱いを請願し小学校給食での有機農産物の活用推進することで有機農産物生産農家を増やし、その結果、有機農産物が多く流通するようにして社会全体を健康にしたい。



そのため、有機農業を志す就農希望者を含め、技術研修や視察を多数受け入れるなど人材育成にも力を注いでいる。

「go organic」「beyond organic」と軽トラックに書き込んだ。「有機農業の普及が日本を救う！」の信念で普及活動に努めたい。